

曾根駅〜大阪国際空港 仮称(大阪空港線)事業化を

昨年7月に阪急電鉄が曾根駅と大阪国際空港を結ぶ新線検討を発表しました。事業化されれば、豊中市にとっては近年まれに見る大規模開発となり、大きな影響を受けます。市当局も影響の大きさについては認識しています。この機会に豊中西部地域の再開発が進み、活性化すれば、交通不便地の解消にも繋がっていくと考えています。曾根駅と大阪国際空港を地下で結ぶおおよそ3キロ余りの間に、途中駅を設置できるように豊中市が主体的に関わることに、民間投資の機会をとらえ、あらたなまちづくりが起るよう、市も公共投資していくべきです。投資できるだけの財務体質にしていくことが必要です。

この新線が開通後に懸念されることは、豊中市が通過されるだけで何の恩恵も受けられないということ。広い視野で見ると、この新線は十三でなにわ筋線と乗入し、関西国際空港と1時間以内で結ばれることとなります。両空港は一体運営されていますから、エアライン乗り継ぎなどの空港利用者にとっては便利になります。また、リニア新幹線の開通も空港経営に影響を与えますので、豊中市としてはしっかりと投資をして、西部の再開発、まちづくりに活かせるように努めなければいけません。

神崎川駅の高架化と 豊中市側への移設を提案

阪急神戸線と神崎川の交差する部分で川の堤防が切られている状態にあるため、高潮等で川があふれることが予想される場合、神戸線を横切る形で設置されている防潮扉を地元水防団(ボランティア)の人たちが閉めなければならぬ状態にあります。当然、防潮扉を閉めるためには阪急神戸線をストップさせなければなりません。このような防災上の大きな課題を解決するためには、神崎川駅を含む一定区間の線路の高架化が必要となります。

川沿いに設定されている都市計画公園神崎川公園は、グリーンスポーツセンターとゴルフ練習場の部分に都市計画決定されている公園で、庄内南部地域における都市型広域避難地としての役割が期待されています。現在、阪急電鉄所有地に開設されているゴルフ練習場をはじめ大半が私有地であり未完成状態にあるため、次のような提案を行いました。

『神崎川駅の高架化と豊中市側への移設を条件に、ゴルフ練習場部分を都市計画公園区域から外し、開発できるようにする』
こうすることにより阪急電鉄からすれば、駅の移設によって自社所有地が駅前の一等地になり、都市計画を外すことによって開発も可能となります。市からしても、堤防が切れていることによる防災上の課題解消、駅の移設による市民の利便性向上、駅前開発を呼び水とした南部地域の住宅密集化の改善などが期待できます。都市計画公園としては、ゴルフ練習場部分は計画から外

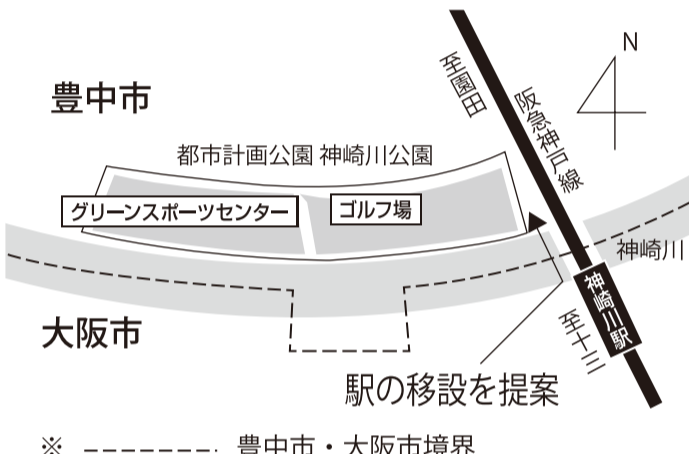
会派視察報告 『上手な民間活手法を学ぶ』

①規則で縛らない図書館とは??
『誰もが居場所を見つけられる空間』(神奈川県大和市)
大和市は一昨年11月、図書館、屋内こども広場、芸術文化ホール、生涯学習センターなどの複合施設「シリウス」を開設しました。運営には指定管理者制度を取り入れ、オープンから10か月足らずで来館者200万人を突破しました。

(特徴) 指定管理者が専門集団指定管理者の「やまとみらい」

す一方、関係機関と協議のうえ、神崎川河川敷を新たに公園区域として指定し、防災機能を整備することによって都市型広域避難地の役割も果たすことができます。

阪急電鉄や大阪府など関係機関との調整が必要であり、実現可能性は未知数ではありますが、私たちはこれからも粘り強く市に実現を求めてまいります。



は、図書館流通センター、サントリーパブリシティサービス、小学館集英社プロダクション、ボーンランドなど6社で構成する企業集合体で、それぞれが図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場の運営を専門領域として施設を管理、運営している。

- ①開館時間の大幅な拡大(常にお客様目線)で対応
- ②機械化で人件費を削減(他のサービスを拡充)
- ③こども広場、市民交流スペース、コーヒーチェーン店
- ④親子連れ、学生、高齢者多世代が集える空間作り

【(仮称) 南部コラボセンターも柔軟な発想と利用者ニーズを意識した事業展開を!】
細かなルールで利用者を縛らない、開館時間を大幅に延長するなど、利用者の視点に立った施設運営は民間活力の成果といえます。誰もが利用したくなるような市民の居場所とするのであれば、利用者の視点で、どのようなサービスが求められているのかを考える必要があります。(仮称) 南部コラボセンターにも最大限、民間活力を導入すべきです!

②コミュニティバスはどうあるべき??

『指定管理者制度を活用したバス運行』
(愛知県尾張旭市)

(特徴) 市営バスに指定管理者制度を導入
平成16年12月に料金1回10

0円として、9人乗りワゴン車3台で、3ルートの試験運行を開始。その後、ルートの拡充や見直しを重ね、利用者が増えたことからマイクログバスを導入。平成20年4月に尾張旭市は、市営バスを公の施設と位置づけ、指定管理者制度を導入し本格運行を開始。

《指定管理者制度の導入のメリット》

- ①運転手の接遇が向上
- ②市営バスの利用を啓発
- ③車体広告事業を開始
- ④回数券販売所の開拓

↓結果、利用者数は13倍増、経費は6.5倍増

利用者数は当初の約1.5万人が、現在は約20万人。経費は当初の約1000万円が、現在は約6500万円。

【なくてはならない】事業に税金の投入を】

利用者は増えているものの、財政負担も増えており、市の負担とサービス提供のバランスをどう考えるかが課題と感じました。しかし、尾張旭市は、公共交通を整備する際、「市内の交通空白地」を、既存のバス停及び鉄道駅から500m圏外と明確に定義し、既存の民間路線と市営バス(コミュニティバス)の役割分担も明確にしていることから、無駄な事業とは感じませんでした。現在、豊中市でも交通不便地の改善策や市の東西バス路線の整備を検討中ですが、「あつたらいいな」ではなく、「なくてはならない」ものにこそ税金を投入すべきです。

〈全国高等学校野球選手権〉 高校野球発祥の地「豊中」 夏の高校野球第100回記念大会

今年の8月に開催される大会は第100回大会の記念すべき節目であり、豊中市も今大会をお祝いし更に発祥の地として全国にPRできる絶好の機会と捉え、私たちが会派はその取り組みを具体的に提案してきました。その結果、本市は朝日新聞社をはじめ各団体と連携し

- 1、阪急電鉄が月2回発行する阪急沿線情報誌を活用したPR
- 2、文化芸術センターに於いて企画展や元プロ野球選手を招いた講演
- 3、兄弟都市沖繩市の球児との交流試合等イベントを実施する事になりました。



豊中市議会 無所属の会

 かんばら こういちろう 神原 宏一郎	 きたの しょうしんじ 北之坊 晋次	 ふくおか まさき 福岡 正輝	 おおまち ゆうじ 大町 裕次
--	---	--	--